

平成25年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成25年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 キダイ

学名 *Dentex hypselosomus*

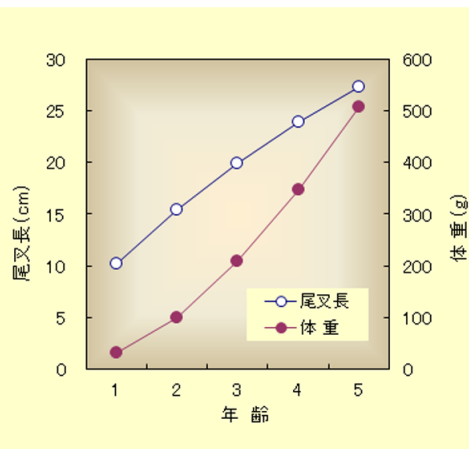
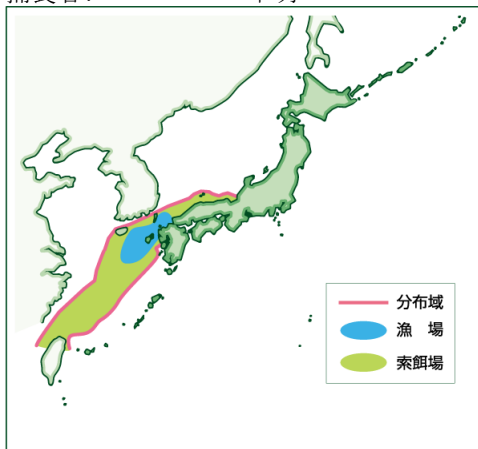
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 2歳
産卵期・産卵場: 春季と秋季の年2回、分布域内(五島西沖～済州島、沖縄北西の大
陸棚縁辺、台湾北東の大陸棚縁辺、浙江、福建近海)
索餌期・索餌場: 大規模な回遊はなく、夏季は浅みに、冬季は深みにという深浅移動
を行う程度
食性: 主に甲殻類
捕食者: 不明

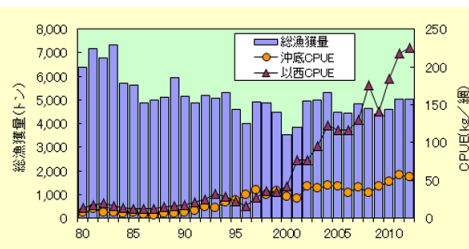
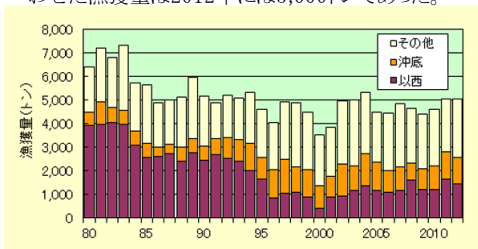


漁業の特徴

漁業の主体は沖合底びき網漁業、以西底びき網漁業、小型底びき網、延縄、釣りである。県別でみると、島根・山口・長崎の漁獲量が多い。かつては日本海西部～東シナ海南部に広く漁場が形成されていたが、現在は日本海西部海域～九州西岸が中心である。中国・韓国漁船によっても漁獲されているとみられるが、漁獲量は不明である。

漁獲の動向

2そうびき沖合底びき網漁業(沖底2そう)および2そうびき以西底びき網漁業(以西2そう)による漁獲量が、近年では全体のおよそ5割を占める。沖底2そうによる漁獲量は1994年以降は1,000トン前後で安定している。以西2そうによる漁獲量は2001年からは1,000トン前後で安定している。その他の漁業種類による漁獲量は2,000トン前後で、全体を合わせた漁獲量は2012年には5,000トンであった。

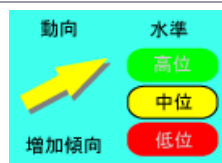


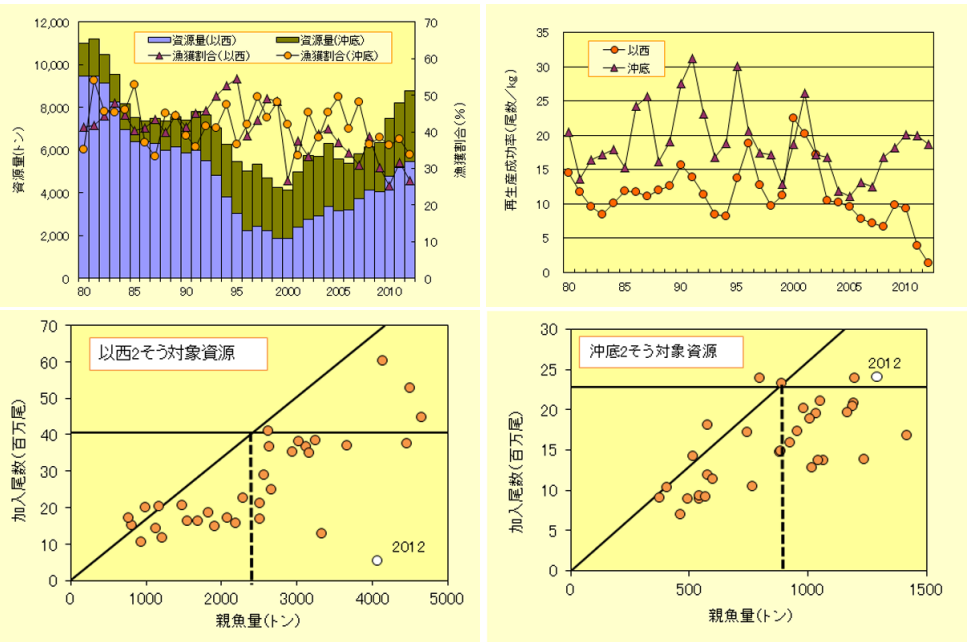
資源評価法

沖底2そう、以西2そうの漁獲対象資源についてそれぞれ資源量推定を行った。漁獲量と漁獲物の生物測定結果から、0～4歳以上の5年齢群の年齢別漁獲尾数を推定し、コホート計算を行った。コホート計算では、沖底2そうでは資源密度指数を、以西2そうでは調査船調査による現存量推定結果を用いて、資源動向が最もよく適合するように最近年のFを決定した。これら以外の漁業対象資源では漁獲量のみで評価を行った。

資源状態

以西2そうおよび沖底2そう漁獲対象資源量は1980年代前半から減少傾向にあったが、2001年以降は増加傾向にある。2012年にはそれぞれ5,400トンおよび3,300トンと計算された。両漁業対象資源の漁獲割合は2006年以降減少している。これ以外の漁業種類によるキダイ漁獲量も沖底2そうと同じく2002年以降2,000～3,000トンで安定している。親魚量は、1980～1990年代には減少傾向にあったが、その後増加傾向に転じ、2012年には近年では最も高かった。加入量(資源計算の0歳魚資源尾数)も1980～1990年代に減少して以降は低い水準にある。





管理方策

以西2そう、沖底2そう対象資源は、近年の再生産成功率の中央値で加入が続く場合、現在の漁獲圧(2012年のF)でも資源量はゆるやかに増加する。回復措置を取る親魚量の閾値Blimitは、再生産関係から以西2そう対象資源では2,400トン、沖底2そう対象資源では900トンとした。現在の親魚量はそれぞれBlimitを上回った。これらのことから現在の漁獲圧で漁獲することが妥当であると考えられる。なお、ABCの算定にあたっては、沖底2そうと以西2そうは現在の漁獲圧で漁獲した場合の漁獲量、その他の漁業では2012年漁獲量にその変動と資源水準から算定した係数をかけた漁獲量を計算し、それらを合計した。

	2014年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	52百トン	Fcurrent	—	—
ABCTarget	43百トン	0.8・Fcurrent	—	—

- Fcurrentは2012年のF
- 漁業種類別に解析しているためF値と漁獲割合は記載していない

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は増加
- 以西2そう、沖底2そう対象資源の親魚量はBlimitを上回っている
- その他の漁業による漁獲量も、2,000トン前後で安定している

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲圧を継続することが妥当である
- 東シナ海における資源管理には関係国間の協力が必要

執筆者: 福若雅章・依田真里

資源評価は毎年更新されます。